

側の口縁部と底部に幅4cm、厚さ0・3cmの箍をそれぞれはめ込んでいる。側板内面には、縦方向と斜方向にカキ目をつけている。底板は、直径一五・四cm、厚さ0・七cmの円板状で、曲物の下端内側にはめ込んだのち、五箇所木釘留めしている。

# 9 関係文献

寝屋川市教育委員会『高宮廃寺 発掘調査概要報告Ⅰ』（一九八〇年）

同『高宮廃寺 発掘調査概要報告Ⅱ』（一九八一年）

同『高宮廃寺 発掘調査概要報告Ⅲ』（一九八二年）

同『高宮廃寺 発掘調査概要報告Ⅳ』（一九八三年）

同『高宮廃寺 発掘調査概要報告Ⅴ』（一九八四年）

同『寝屋川市の文化財』第Ⅱ集（一九八〇年）

同『寝屋川市文化財図録Ⅰ』（一九八四年）

（塩山則之）

## 大阪・池上・曾根遺跡

- 1 所在地 大阪府泉大津市曾根町二丁目
- 2 調査期間 一九八二年（昭57）十一月～十二月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 瀬川 健・森井貞雄・小山田宏一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

この遺跡は、大阪府の南部に所在し、既に弥生時代中期の環濠集落として著名である。木簡（折敷底板）は、国史跡指定地の西側に近



（大阪西南部・岸和田）

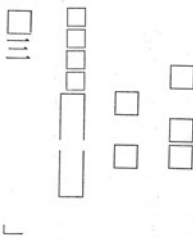
接する民有地（昭和五七年度第八調査区）で検出された井戸（SE101）底から出土した。井戸は、上径約二・三m、深さ約一・四mを測り、四段重ねの曲物井筒を有している。共伴した瓦器から、一三世紀後葉の年代が与えられる。



8 木簡の釈文・内容

(1) ・「

・「 申 値置六



172×(130)×5 061

折敷底板で右側は欠けている。習書か。

9 関係文献

大阪府教育委員会『池上・曾根遺跡発掘調査概要XV』（一九八二年）  
（森井貞雄）

大阪・万町北遺跡（第二次調査区）

- 1 所在地 大阪府和泉市万町
- 2 調査期間 一九八三年（昭58）五月～一九八四年（昭59）二月
- 3 発掘機関 和泉丘陵内遺跡調査会
- 4 調査担当者 灰掛 薫・森 茂
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代後～晩期、弥生時代中～後期、古墳時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（岸和田）

万町北遺跡は、現在の和泉市万町集落の北西方一帯に広がる段丘面上に位置する複合遺跡で、調査は遺跡の所在する和泉丘陵地区の開発事業（主体、住宅・都市整備公団）に伴い、一九八二年度より実施している。その結果、第一次調査（一九八二年）においては弥生時代中期の方形周溝墓・堅穴住居、古墳時代後期